

証券市場新聞

1 第175号

日経平均株価

2万1870円56銭

▲159円18銭(前日比)

TOPIX

1605.40

▼1.12(前日比)

2019
4/15
月曜日

発行元 株式会社 証券市場新聞社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6C

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

marketpress.jp



米国では5Gサービスがスタートした!

ベライゾンが4月3日に5Gサービスを開始したのは、イリノイ州シカゴとミネソタ州リノア州の中心部限定の範囲で、通信速度が現在の100倍となる5Gは産業構造を一変させる可能性がある。総務省は4月10日に5Gの周波数を通信各社に割り当てており、9月のラグビーワールドカップでNTTドコモ(94%)がプレサービスを開始する予定。KDDI(94.3%)とソフトバンク(94.3%)も年内のプレサービス開始を予定している。2020年の東京五輪までに5Gのサービス開始という目標を掲げ、理想のスケジューリングになる。3月4日に、23日までに急騰したア

4月に入って動き本格化

変させるとして、国内

株式市場でも幾度となく関連銘柄が物色されている。次世代の高速通信規格「5G」が4月に入ってサービス開始へ向け本格的に動きだしている。3日に米通信大手のベライゾン・コミュニケーションズが5Gに対応した携帯通信向けサービスを米2都市の一部で開始。スマートフォン(スマホ)向けの5G通信網の商用化としては世界初となり、これを受けて出遅れを挽回すべく、国内でも5Gサービス開始へ向けた取り組みが急ピッチで進む可能性がある。

5G出遅れ挽回なるか?

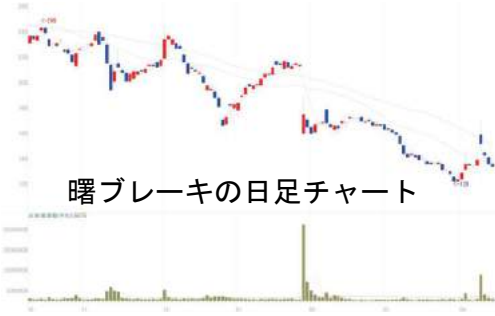
日本企業はベライゾンを追撃へ

37)がプレサービスを開始する予定。KDDI(94.3%)とソフトバンク(94.3%)も年内のプレサービス開始を予定している。2020年の東京五輪までに5Gのサービス開始という目標を掲げ、理想のスケジューリングになる。3月4日に、23日までに急騰したア

は目先の調整一巡、5G向け通信計測器の今期の受注予想が注目されよう。システムやソフト開発でサイバーコム(38.5%)やアルチザネットワークス(67.78%)、基地局など設備の関連ではNEC(67.0%)やコムシスホールディングス(172.1%)、協和エクシオ(195.1%)、村田製作所(698.1)なども注目を怠れない。

日経平均日足チャート





曙ブレーキの日足チャート

曙ブレーキ続騰

再建案固まると報じられる

心に生産能力を縮小し、最大3工場の閉鎖を検討する。保有株のうち筆頭株主のトヨタ自動車を除く、大半の銘柄を売却し、支援企業を5月末ま

週明け8日、曙ブレーキ工業(7238)が続騰。日本経済新聞が「再建計画を固めた」と報じた。欧米を中

今週の動意銘柄

でに選定し200億(300億円を増資すると伝えた。

ビープラッツ大幅減額

8日、ビープラッツ(4381)がストップ安。集計中の19年3期通期の単独業績を大幅に下方修正した。売上高を8億1500万円から6億3500万円(前期比13.2%増)、営業利益を1億7700万円から

700万円(同84.8%減)へ。旧商品のカスタマイズ開発を進めたが、計画との売上差異が発生し、収益が悪化した模様。

サイジニアはS高

8日、サイジニア(6031)がストップ高。ネット上の情報を企業自らコントロールできるクラウドプラットフォームフォーミュサービスのサイトをリリースしたと発

表したことで、収益貢献を期待した買いを集めた。Google Ieをはじめ世界約160以上の検索エンジン、SNSサイトなどとデータ連携。デジタルナレッジの一元管理を可能にするYextに入力されたデータは、連携パートナーが提供するサービスに自動反映され、企業はユーザーに最新で正確な情報を提供できる。

ソニーはサードP買増し

9日、ソニー(6758)が急伸。ロイターが「ヘッジファンドの米サード・ポイントが、ソニー株を買って増して、同社に改革を求めようとしている」と報じた。関係筋の話で8日分かった」と報じた。サード・ポイントはソニーに一部事業部門を巡り選択肢

の模索を求める意向」とし、「同社の映画事業を巡り、アマゾン・ドットコムやネットフリックスなどが買収に関心を示すとみている」と伝えている。

新紙幣関連に買い

9日、日本金銭機械(6418)とグロリー(6457)

が一時ストップ高まで買われた。政府は数年後をめどに、1万円などの紙幣の肖像画を変える準備に入ったことから、新紙幣対応に絡んで紙幣識別機大手の両社が関連銘柄の筆頭として買いを集めている。両社の他ではムサシ(7521)がストップ高まで買われ、ホール向けの交換需要でオーイズミ(6428)、POSな

正直いいさんの株で大判小判

12日の東京市場は続伸。高寄りの後利益確定売りに押され、小幅に下げに切り返しましたが、円安を支えに高が指数を押し上げ、安川電機も減益見通しですが、株価への織り込みが進んで、売り一巡後は下る底堅い動きでした。主要企業23日の日ターゲットを確認するまるとする中小うです。具体的(777)やメは上げ一服ながら認などのニューと考えられ、引改革では1対2株式分割を発表したチームスピリット(4397)も2Q決算は利益幅が拡大しており、押し目買いで問題ないでしょう。



花咲翁

バイオを中心に個別物色

型は3Dマトリックス デイシノバ(4875)ら、今後の臨床、製造承が株価を押し上げるき続きマーク。働き方

公開価格の2.3倍

9日、前日に東証マザーズ市場に新規上場したヴィッツ(4440)

は公開価格2650円の2.3倍となる6100円。初値が生まれた。同社は組込み製品のソフトウエア及びリアルタイムOSの受託開発と販売、組込みソフトウエアなどの研究開発を行う。

佛山に水処理膜新会社

東レ

中国の水環境改善・水不足に対応

東レ(3402)は水処理膜製品を製造・販売する新会社「東麗膜科技(佛山)有限公司」を中国・佛山に設立する。グループの水処理膜事業会社は中国では北京と塩城にもあり、新たに佛山に拠点を設けることで、急拡大する現地の水処理膜需要に対応する。

広東省は産学連携を強化して先進技術の研究開発を計画的に進めており、特に佛山市は広東省珠江デルタ経済圏の中心部に位置しているため、日本企業との連携実績も多い。新会社は産官学連携を視野に上水・工業用水処理、海水淡

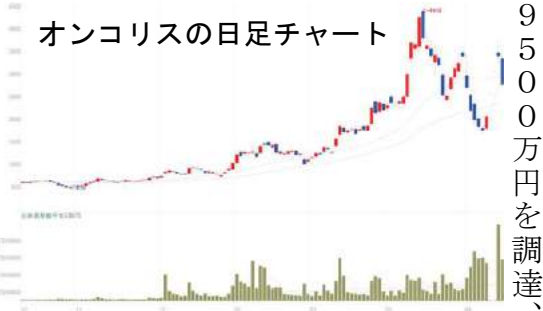
水化、下廃水再利用に使われるRO、NF、UF、MBRの各種水処理膜を供給、現地の水環境改善・水不足問題の解決に貢献したい考え。また、佛山では高機能ポリプロピレン長繊維不織布(PPスパンボンド)を生産・販売する「東麗高新聚化(佛山)有限公司」が拠点を建設中で、新会社は隣接地に設立。インフラやシステム構築を共有することで効率的な体制を整える。同社は中期経営課題に環境や資源・エネルギー問題解決への貢献を掲げており、世界有数の総合水処理膜メーカーとして水処理事業をグローバルに展開していく。

企業レター

東レ(3402)

10日、オンコリスバイオフアーマ(4588)が前日に続いてストップ高。中外製薬(4519)との資本・業務提携と併せてテロメライシンが厚生労働省の定める「先駆け審査指定制度」に指定されたと発表されたことが引き続き好感され、中外製薬への第三者割当増資で約7億

オンコリスは連続S高 資本提携と先駆け審査指定



がんウイルス療法「テロメライシン」の製造や各種管理体制の構築にあてる方針で、中外製薬にテロメライシンの独占的ライセンスとオプション権を付与する。

10日、オンリー(3376)が急落、新安値を更新した。19年8月期の連結業績予想について、売上高を80億円から74億円(前期比3.8%増)、営業利益を10億5000万円から7億4000万円(同7.6%増)へ下方修

オンリー減額で安値

一目時間論一巡

先週の東京株式市場はマチマチの展開でした。日経平均は週末にファーストリテイリングの急騰で2週連続伸でしたが、TOPIXは反落となりました。TOPIXは3日連続で20日線を割り込んでおり、5日線と20日線のデッドクロスが近づいてきました。下値は1600ポイント近辺に位置する一目均衡表の基準線並びに雲上限が支持線となっており維持できるのかどうか。

NT倍率が13.6倍に拡大し昨年12月以来の高水準に拡大してきました。採用225銘柄の中のわずか2銘柄で200円押し上げてしまう日経平均はボーイング1銘柄で乱高下してしまうNYダウ同様に歪な指数です。そのNYダウは週を追うごとに週間の上下幅が縮小してきており、買いと売りの力関係が均衡しつつあります。一目・時間論における一巡76日目は今週金曜日。今週は換金売りを進める週と考えます。

日々勇太郎

転ばぬ先のテクニカル



正、期末一括配当を41円から35円(前期35円)へ引き下げた。秋冬商品の不振や購買価格の低下、オーダースーツの未出荷が多かったことが要因。

ホールディングス(8473)、新生銀行(8303)とも交渉しているという。

スルガ銀支援交渉伝

10日、スルガ銀行(8358)が急反発。家電量販店大手のノジマ(7419)などと支援交渉に入ったと伝わった。ノジマは同行の株式を5%弱取得。リソナホールディングス(8308)やSBI

キリン堂57%営業増益

11日、キリン堂ホールディングス(3194)が続騰し、年初来高値更新。20年2月期の連結業績は、営業利益は32億円(前期比57.3%増)と大幅増益を見込んだ。既存店の改装を一段と加速、自社電子マネー付きポイントカードの普及なども図る。

日経平均とNYダウの相関

平成時代の株式市場を回顧

国際テクニカルアナリスト 武蔵 宗久 氏

日本は新しい時代を迎える。そこで平成の時代を回顧する。その国の経済、社会の現況を反映するのは、その国の株式市場である。よって日経平均の30年間の10年ごとに検証することで、当時の日本の経済及び社会情勢を把握することが出来る。

まず、平成元年1月発会の日経平均は3万243円であった。そしてその年の年末には3万8915円の史上最高値を記録した。NYダウの平成元年初日は2177ドルであった。そして10年後の平成11年発会の日経平均は、1万3415円と10年間で半値以下に急落した。NYダウは9181ドルと10年間で4倍以上急騰し、日本とは正反対であった。その後、平成21年発会は9043円で、この10年間に於いても気迷い相場が続いていた。NYダウは9034ドルで、NY市場も大きな変動はなく、この年で日経平均とNYダウの指数差は、ほとんどない状況であった。

そして、平成31年の日経平均発会は1万9561円と10年で2倍以上上昇し、平成時代の後半において、やっと経済、社会情勢が安定したことになる。NYダウは2万3346ドルと平成の30年間で10倍以上上昇し、前年の10月3日には2万6828ドルの史上最高値を記録した。現在進行中のテクニカル分析

相場展望

においては、今年の世界の株式市場が、新たな長期のトレンドに突入した可能性があり、注意深く見守ることが賢明だ。



パイプドHDの日足チャート

パイプドHDストップ高

20年2月期営業利益3倍予想

パイプドHD(319)がストップ高。20年2月期の連結業績予想は、売上高は65億円(前期比19・9%増)、

11日、パイプドHD(319)がストップ高。20年2月期の連結業績予想は、売上高は65億円(前期比19・9%増)、

良品計画は減益失望
11日、良品計画(7453)は急反

ファーストリテイテ国内回復

週末12日、ファーストリテイテ(9983)が反発。19年8月期の連結営業利益を2700億円から2600億円(前期比10・1%増)へ下方修正した。ただ、第2四半期累計の連結決算は純利益1140億2900万円(前年同期比9・5%増)と純利益では過去最高を記録。2月にはスウェットなど春物商品が順調に立ち上がっており、国内ユニ

安川電機は下げ幅縮小
12日、安川電機(6506)が続落。20年2月期の連結業績は売上高4650億円(前期比2・0%減)、営業利益465億円(同6・6%減)と減収減益を見込んだ。ただ、慎重な見積もりで、同時に上限200万株の自己株取得枠を設定したことから朝

落。19年2月期の連結決算は計画を下回り、営業利益447億円(前の期比1・2%減)と小幅ながら減益で着地したこと、失望売りを浴びた。大型家具の販売不振と人員増強や先行投資負担が収益を圧迫した。

今週の動意銘柄

潮流

外人が買いに転じた理由

弱気になる材料はなくなった



外国人投資家が新年度入りした日本株式市場に対してどのようなポジションを取ってくるか注目されていた。昨年から外国人投資家の売りが目立っていただけに心配されたが、新年度から大幅な買いに転換したことは株式市場には大きな安心感となる。

東証が発表した4月第1週(1～5日)の投資部門別株式売買動向(東京・名古屋2市場、1部、2部と新興企業向け市場の合計)によると、外国人投資家は10週ぶりに買い越しに転じた。買越額は6227億円だった。現物と先物の合計で8301億円の買い越しとなった。また、財務省が発表した対外及び対内証券売買契約などの状況(週間、指定報告機関ベース)によると、外国人投資家は3月31日～4月6日に日本株を2週連続で買い越した。買越額は1兆4637億円に膨らんだ。

ただ、外国人投資家が大幅な買い越しとなっているものの、日経平均は4月に入ってから2万1900円の高値を付けてからは軟調な展開が続く。東証1部の売買代金も2兆円を下回る日が続いた。4月27日から始まる10連休のゴールデンウィークを前に個人投資家は既に

外国人投資家が新年度入りした日本株式市場に対してどのようなポジションを取ってくるか

買いを手控えて手持ちの株を売っているようだ。4月第1週に個人投資家は5576億円を売り越した。どうして外国人投資家が買いに転換したかを良く考えた方がよい。それは前年の急落相場となっていたものが解消されてきているからである。

昨年の急落相場をもたらしたのは、米国政策金利の上昇懸念や半導体などのハイテク産業の業績懸念などである。この懸念材料が徐々に後退していることで、売り材料が乏しくなっていることを理解しないとイケない。特に世界の二大消費国である米国と中国の貿易摩擦への懸念が後退している。さらに、欧州連合(EU)は英国の離脱期限を10月31日まで再延長で合意した。この中で過剰流動性が維持されているため、ハイイールド債などの高利回り証券は大幅に上昇している。世界的にREIT指数も堅調だ。米国REIT指数は史上最高値を更新し、ダウ・ジョーンズ米国不動産指数も2016年の高値を更新しているのである。ようするに弱気になる材料はなくなったのである。

潮流銘柄はエレコム(6750)、神戸物産(3038)、エードット(7063)。

約1万人の参加者の中

の資産運用コンテスト「第一回S1グランプリ」にて優勝。直近では2017年1月に始まった夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」において優勝。1カ月間における3銘柄の合計パフォーマンスでは15.5%と断トツの結果。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp



岡山憲史氏(株式会社マーケットバンク代表取締役)のプロフィール

過剰流動性維持される



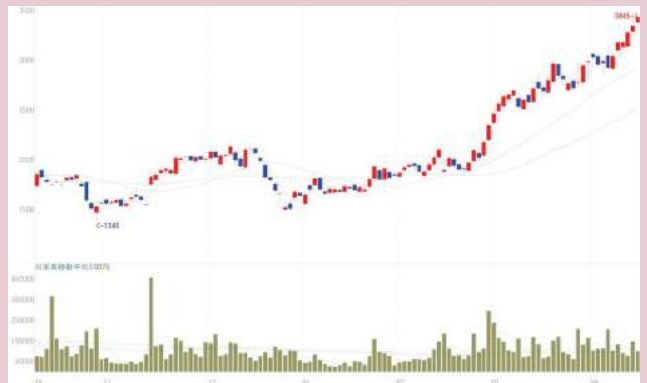
チャート から読む 騰落銘柄

NFK-HD(6494)



1000円トビ台での揉み合いを経て緩やかな上昇基調継続、25日線接近場面で割り切ったの押し目買いも一法。大株主・オリンピック工業からの再度の株主提案で思惑錯綜。

ファイバーゲート(9450)



5日移動平均を支持ラインにじりじりと下値を切り上げる。Wi-Fiサービス事業の成長性は高く収益急拡大。需給も良好で連日の最高値更新も過熱感ない。当面4000円大台替えが目標。

ミクシィ(2121)



3月4日に2841円まで戻した後に調整、2500円台での底値揉み合いを経て底割れの気配。2月8日の安値2430円を下回れば昨年12月25日安値2064円までフシはない。モンスター課金減も懸念。

あおぞら銀行(8304)



大勢下降トレンドのなか、日足は安値保ち合いを下放れ再び下値模索へ。収益悪化懸念に加え、信用買い残の整理が進まず需給も重荷。横ばっていた5日線が鋭角的な右肩下がりに転じ下げ足加速も。

※チャートは日足

今週の

活躍期待銘柄



CARTA HD (3688)

経営統合効果が表面化へ

CARTA HOLDING GS(3688)の株価は今年に入って幾度となく1000円割れまで売り叩かれていたが、2月5日高値1148円や3月29日高値1167円を抜けたことで本格的な上昇相場入りが期待される。電通からの資本参加によりサイバー・コミュニケーションズと経営統合、VOYAGE E-GROUPから現社名へ商号変更し、メディア事業とアドテクノロジー事業を展開している。アドプラットフォーム事業では広告主向けサービス「Zucks」が機能拡充効果で好調に推移、9月期から12月期への決算期変更で単純比較はできないが、19年12月期は連結営業利益で25億円と18年9月期の14億2000万円から大幅な増益を見込んでおり、経営統合効果は今後本格的に収益に寄与し(と)

本格的上昇相場入りを期待



3Dマトリックス (7777)

止血材を中心に開発進む

スリー・ディー・マトリックス(7777)が出来高を膨らませ、大底圏離脱の動き。自己組織化ペプチドを基盤に再生医療や外科医療、細胞治療、創薬技術確立に取り組みバイオベンチャーで、止血材を中心に開発が順調に進んでいる。国内では内視鏡的粘膜炎下層剥離術下の漏出性出血に対する治験を完了、20年4月期第1四半期中に製造販売承認を申請する。欧州では後出血予防材の適応追加が承認され、次世代止血材も早期に臨床試験へ移行。米国ではFDAと臨床に向けたプロトコル構築に向けた協議を進めており、今4月期中に臨床を開始する。自己組織化ペプチドはウイルス感染の心配がなく均一品質で、安全かつ大量生産が可能。今後の承認や臨床結果が株価を突き上げていくことになり、反騰相場は緒についた(き)

1Q国内製造販売承認申請へ

※チャートは日足

日経平均は上値指向

高野恭壽の株式情報 これでどや!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活!



高野恭壽(たかのやすひさ)氏 1949年生まれ、大阪府出身。株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家として独立。講演会のほか、ラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに多数出演。「株式投資30カ条」など著書も執筆。

日経平均は半導体など外需系が調整する一方で内需系が反発をみせたことでした。円相場も円安に振れ米国株も値を維持していたこと

も日経平均の堅調さの背景になったようです。11日の東京市場では寄り付き段階は外需系などが売られたり、内需系も動きが鈍かったために安く寄り付いたのですが、食品、電鉄、小売り、医薬品など内需系銘柄が物色されて日経平均はプラスに転じていきました。外需系も反落するもの、下げ渋りもみられ

HEROZや千代化を注視

向となると見ています。

外需系の中でもいすゞ自動車(7202)、日野自動車(7205)などトラック系がしっかりと振りました。ソニー(6758)、NEC(6701)は9日に急伸していましたが、その後は2日連続で押し目を入れました。再び買われるタイミングが近いと思われるのでこの押しは狙うチャンスになりそうです。また、ラウンドワン(4680)も5日に急伸した後、調整が続いていましたが、ほぼ急伸のスタートまで戻ったことで買いのチャンスを迎えました。狙うチャンスになりそうです。医薬品ではロート(4527)、参天製薬(4536)が反発したほか、塩野義製薬(4507)も戻す可能性の高い動きがみられたことで注目すべきでしょう。HEROZ(4382)が分割後に大きく買われた後、一服していましたが、再騰する動きになりましたが、AI関連として注目されており、目先の株価動向を注視する必要があります。JAL(9201)も反発しており要注目です。アンジェス(4563)はま

たことも日経平均がしつかりした要因になっており、日経平均は徐々に上値指

だ調整が続いています。800円台を維持されていますが、動きにメリハリがみられませんが、積極的な買いは当面見送りです。大きく突込んだ場合には狙う姿勢で。

地味な動きにあります。千代田化工建設(6366)、野村ホールディングス(8604)がジリ高傾向を維持しています。先高の動きが明確になれば思い切つて拾うところ。加えて何度か紹介のアコム(8572)もジリ高歩調で、先高期待が強くなってきました。



高野恭壽公式ホームページ
高野恭壽の株式市場情報
これでどや!!
<https://marketpress.jp/kabu-takano/>
毎日情報を配信中!

星野三太郎の株街往来

～ポイント運用～

★ 新年度

入りととなり、多少は株式市場も盛り上がる展開を想定していたが、指数の上値は重く、日本株だけが一人負けしている雰囲気だ。

盛り上がりがない要因は外人投資家が買わないからだとか、様々なことが指摘されているが、改めて感じることは、国内投資家に元気がないこと。

筆者が個人的に有能なディーラーと認める知人も数名が証券会社との契約更新をせず、放浪の旅に出たり、全く別の仕事に就いたり、株式とは無縁の世界に行ってしまった。自営業の傍らにデイトレしていた元同級生も最近ではヤル気が失せてしまったと語っていた。やはり個人投資家が魅力に思える環境が必要だし、新たな投資家育成が急務だろう。

投資家育成といえば、最近、面白いと思ったのが、ポイント運用。楽天なら楽天ポイントを楽天証券のファンドと連動して運用するというものらしいが、運用益で0・2%数日で増えている。この先、当然ながらマイナスになることもあるだろうが、初心者にとってはキツカケ作りになる。このように従来の発想を超えた取り組みがもっと増えてほしい。



企業レター

表面処理用電源など出展

三相電機

名古屋ものづくりワールドへ



三相電機（6518）は4月17日～19日にポートメッセなごや第3展示館で開催される「名古屋ものづくりワールド 2019 第4回名古屋機械要素技術展」（リードエグジビション ジャパン主催）に出展する。

モジュール式表面処理用電源『MRMシリーズ』

導体製品も紹介する。さらに、同社ブース内において、セミナーを開催し、展示商品の説明に加えて、多様化していくニーズに対応する同社の取組みを紹介する予定。

同社ブースでは、表面処理用電源の「モジュール式表面処理用直流電源MRMシリーズ」、小容量貴金属めっき用電源 DCAUTO HK-Gシリーズなど、各種表面処理用電源や、燃料電池対応のパワーコンディショナなどの新エネルギー関連、さらに同社オリジナルの「SiCモジュール」など各種パワー半導体製品も紹介する。



天皇陛下御即位記念乗車券

近鉄GHD

天皇ご即位祝し

記念乗車券を発売

年6月30日までの乗車当日限り有効

- 近鉄グループホールディングス（9041）傘下の近畿日本鉄道は、皇太子殿下のご即位を祝して、令和元年5月1日から記念乗車券を発売する。
 1. 乗車券名「天皇陛下御即位記念乗車券」
 2. 発売期間 5月1日から6月30日
 3. 有効期間 2019年6月30日
 4. 内容 どの駅からも利用できる300円区間ゆき片道乗車券2枚、400円区間ゆき片道乗車券1枚の3券片綴り
 5. 発売額 1000円
- 発売は主要駅で発売枚数は限定2万枚、売切れ次第発売を終了。購入は一人あたり5枚までとしている。

敏腕先物トレーダー

ハチロクの裏話

となっており、昨年10月2日の140・444枚を抜いてきた。現在は12

米中通商協議に注目

現物売り先物買い戦略続く

何を言っているんだ、英国」といふ声が世界中から聞こえてきそう。結局、英国のEU離脱問題は10月31日まで先送りとなった。「いしるよ」というのが多数の声であろう。この間、もしメイ首相が辞任したら、さらに混乱が深まり離脱すらなくなる可能性もある。重要なことが決まれないのは議会制民主主義の欠点である。このことがよくわかった。相場の反応は延期が決まってもほとんど反応がなかった。延期は予想の範囲内であったということであろう。今後の相場の関心は米中通商協議に移っていきそう。

好調な米国市場を受け、VIX指数が低下している。2日時点の先物の建玉は141・483枚の売り越し

ポインタ台と10月以来の水準となっているが、この値が25ポインタを超えてくるとリスクパリティフェアンドがリスクの高い株を売り、債券ヘシフトする戦略をとるということは昨年10月の下落で体験した。現在は売りの建玉こそ多いが、VIX指数のチャートが、VIX指数の高位位置にあるため、まだ煮詰まり感があるというわけではない。しかし、注意は必要である。

今週は10連休を控えて「現物を売り先物を買う」といった戦略が続くと思われる。月末から決算発表が始まり、個別銘柄を持つにはリスクがある。しかし、上昇してしまいうりスクもあるの、先物を買っておこうという戦略だ。先物だけしている投資家はクリック株365を使えば休み中にも売買はできる。現物株の

10月2日の140・444枚を抜いてきた。現在は12

となっており、昨年10月2日の140・444枚を抜いてきた。現在は12

今週のスケジュール

- 15日 米4月NY連銀製造業景気指数 (21:30)
- 16日 3月首都圏新規マンション発売 (13:00)
独4月ZEW景況感指数 (18:00)
米3月鉱工業生産・設備稼働率 (22:15)
- 17日 3月貿易統計 (8:50)
インドネシア大統領選挙
中国3月都市部固定資産投資、中国3月鉱工業生産、中国3月小売売上高、中国1-3月期GDP (11:00)
OPEC臨時総会(ウィーン)
米2月貿易収支 (21:30)/ページブック
NY国際自動車ショー(~28日)
- 18日 米3月小売売上高、米4月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数 (21:30)
米3月CB景気先行総合指数、米2月企業在庫 (23:00)
- 19日 3月消費者物価指数 (8:30)
米3月住宅着工件数 (21:30)



一旦利益を確定している投資家はみも運用している投資家は

今週は米中通商協議の進展次第であるが、下値は窓埋めの2万1267円前後、上値はボリンジャーバンド22200円

処と思われる。(ハチロク)

編集後記

過渡期を迎えたコンビニ経営。出店増で店舗当たり手の売りが伸び悩み、人手不足が深刻化するなか、年中無休24時間営業への不満が噴出した。今やコンビニは住民票や印鑑証明発行、災害時の緊急対応を含めて欠くことのできない社会インフラとなっている。

ただ、サービスが増える一方、人件費や光熱費など経費は加盟費負担、多くの店主は肉体的、経済的に限界に達しているという。

現行システムを変えないと加盟店維持はむづかしいが、各社の株価はこの点をどこまで織り込んだらう。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被りたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。